

## 理事からのメッセージ

TTC創立40周年を迎えて  
～情報通信技術の更なる高みへの情熱～

理事

大矢 晃之 (ソフトバンク株式会社 執行役員 テクノロジーユニット統括 モバイル&amp;ネットワーク本部 本部長)



情報通信が、現代社会において、既に必要不可欠なインフラの一つになっていることは言うまでもありません。日々の生活において、人は多くの時間をスマホやPCと接しています。暇つぶしの場合もあれば、学校や仕事・日常生活のあらゆる場面、もちろん緊急を要する場合もあります。特に、地震などによる大災害が発生した場合、水、電気、交通などのインフラよりも通信は早く復旧する必要があります。何故なら、それらのインフラ復旧にも情報通信が必要不可欠だからです。そしてその大災害の起こる頻度や規模のリスクはさらに高まっており、さらなる高度化や信頼性の向上が求められています。

情報通信技術は、他のインフラ技術に比べて、破壊的技術革新を経て現在に至っており、その急速な進化は今後も続いて行くことになります。単なる電話の時代から、インターネット、ブロードバンド、モバイルへと変容し、今後は更にAI（人工知能）との融合も一気に加速して行く時代に突入しました。その先にどんな世界が待っているのか、「TTC 創立 50 周年を迎えて」を楽しみにしておきます。

いずれにせよ、情報通信技術の重要性は、益々高まって行くことはあっても、低くなることはありません。また、誰でも何処でも同じ情報通信技術が使える必要があります。国内だけではなく国外とも繋がることで真の情報通信の恩恵を享受することが出来ます。その意味においても、国内外に対する情報通信技術の整合

性を保つ TTC の役割が、非常に重要であることを再認識すべきだと考えます。

情報通信技術の役割は、情報の収集・処理・保存・伝達を、迅速かつ誤りなく安定的に常時行うところにあります。情報そのものは、人と人とのコミュニケーションだけだったものから、モノやデータベース、モノとモノの間の通信も含むようになり、今では人とAI、AI とモノの連携も包含されるようになっていきます。AI が次の情報通信革命をもたらすことは間違いないでしょうが、それが人々の幸せに繋がる情報通信革命であることを願っています。我々情報通信技術に携わる者には、それを目指すべき責任と役割があると思います。

まだまだ単なる電話が主流であった 40 年前と比べて、現在は関係する団体や企業も様変わりしており、中心となる技術も全くと言って良いほど変化してきました。この傾向は、好むと好まざるとに係わらず続き、それに背を向けることは出来ません。現在主流となっている技術は、40 年前に無かった訳ではなく、人々の情熱がそれらをここまで成長させて来た成果だと思っています。最適な技術が選択されて成長して来たというよりは、多くの人々の熱意と強い意思が推し進めた技術が成長したと言うべきかもしれません。TTC が、これからもその様な場や機会を人々に与え続け、日本が世界の情報通信の発展に貢献し続けることを期待しています。